

東部環境工場ごみピット火災復旧

1 概要

東部環境工場の安定稼働のため、今年1月末にごみピット火災で被災した箇所の復旧及び再発防止策を実施するもの。

2 経緯

- ・発災後、市民への影響を最小限に抑えるため、応急処置により工場を稼働した。
- ・損傷箇所の詳細調査は、まとまった期間の工場停止を伴うことから、市民への影響を考慮すると困難であった。
- ・そのため工場を稼働しながら状況観察・点検を行い、機能維持工事にも影響がないよう、復旧箇所を選定した。
- ・今後、市民への影響がないよう安定的に稼働を継続するために、必要最低限の復旧が必要。

3 復旧費

12月議会補正予算で計上予定で、関係課と協議中

復旧対象箇所	被害状況
① ダンプボックス (1基)	本体及び動力部分の焼損、変形
② 破砕出口シャッター (1基)	巻き上げ式シャッターの焼損による動作不良
③ 排煙設備 (排煙窓12箇所)	熱による変形で開閉不可
④ 照明設備 (20台)	熱による不点灯
⑤ 屋根防水シート (幅26m×奥行15m×高さ5m)	熱による破損、変形



① ダンプボックス

② 破砕出口シャッター



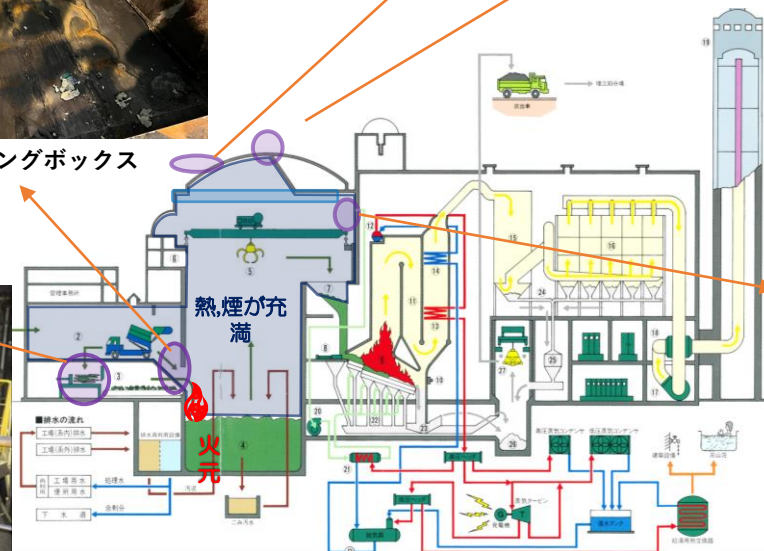
⑤ 屋根防水シート



③ 排煙設備



④ 照明設備



4 再発防止策

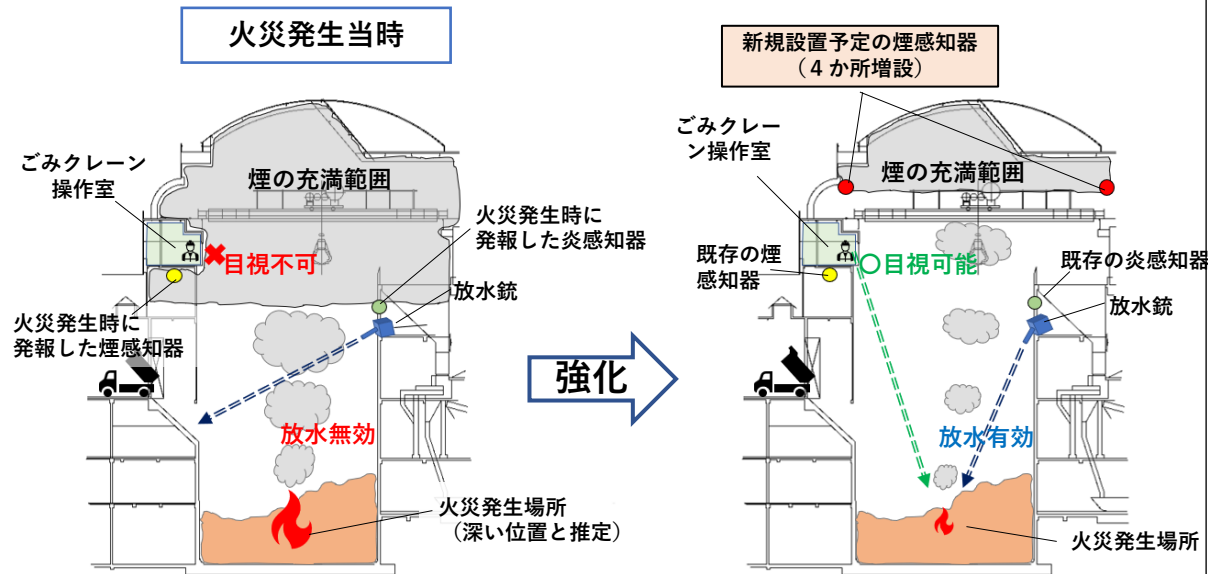
今回の火災について

- ・1/27の火災は、夜間でクレーン操作室は無人
- ・ごみの深層から煙のみが発生し、感知器が発報したときには、すでに煙が充満し延焼が進んでいたものと推察



同様の火災に対し、再発防止策を検討

■既存設備補強（ごみピット上部の煙感知器増設） → 本年度実施予定



- ・炎が発生した場合は、炎感知器が発報
- ・煙のみが発生した場合は、クレーン操作室下の煙感知器まで煙が充満しないと発報しない。
- ・クレーン操作室は、夜間は無人。煙感知器が発報してクレーン操作室に配置についても煙でごみピット内の目視は不可。
- ・ごみピット上部に煙が充満し始める早い段階で感知が可能
- ・クレーン操作室からの視界を確保でき、手動放水銃による有効な初期消火活動が可能
- ・早期感知により、屋上の排煙窓の開放を安全に実施

■夜間等の火災対応マニュアルの作成

消防計画に付随する火災対応マニュアルに職員が少ない夜間又は休日対応を想定したマニュアルを追加

■火災原因物の搬入防止

- ・市のホームページやLINE、ごみカレンダーアプリなどを通じバッテリー等が発火する映像を活用し分かりやすく周知
- ・工場における搬入ごみの抜き打ち検査を強化し、火災原因物の搬入防止を含めルール違反ごみの搬入防止の指導・啓発を徹底